

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)リーフアレジデンス本厚木計画

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010
 評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.40					3.7
1 音環境		1.0	0.15	3.3	1.00			2.8
1.1 騒音		1.0	0.50	3.0	0.50			
1 室内騒音レベル		1.0	1.00	3.0	0.50			
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50			
1.2 遮音		1.0	0.50	3.7	0.50			
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	Dr-50以上	-	-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Dr-45以下	-	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	Dr-50以下	-	-	4.0	0.20			
1.3 吸音		-	-	-	-			
2 温熱環境		2.3	0.35	5.0	1.00			4.4
2.1 室温制御		3.7	0.50	5.0	1.00			
1 室温		3.0	0.63	-	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能	熱貫流率 U = 0.61(W/m2K)程度	5.0	0.38	5.0	1.00			
4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		1.9	0.25	3.2	1.00			2.9
3.1 昼光利用		2.4	0.30	3.5	0.50			
1 昼光率	共用部1.3% 住居部Dタイプ9.1%・Eタイプ1.70%	2.0	0.60	4.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.50			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		1.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気環境		4.2	0.25	4.0	1.00			4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	対象外の建材も4 採用、ホルムアルデヒド以外のVOCも抑えてる	5.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	2.3	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		-	-	1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		3.1	0.40	3.8	1.00			3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応	各住戸に100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能	-	-	4.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.5	0.40			
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画	エントランスの内装バース作成、住居は詳細図等で内装や照明計画作成	4.0	1.00	4.0	0.50			
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.0	0.31	-	-			4.0
2.1 耐震・免震		5.0	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた50%増の耐震性	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	免震装置の導入	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	概ね75年～90年	5.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	更新必要間隔は最低40年間	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	超節水便器の採用	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	大震災後に大きな補修をする事なく機能の保全が出来る	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブルの採用	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高2900mm以上	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	配管ピットの設置により建物の機能を維持	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準 省エネルギー対策等級における等級4	5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		設備システムの効率化の評価基準に該当している	4.7	0.40	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		#VALUE!	5.0				
集合住宅の評価		燃料系潜熱回収型ガス給湯器採用	4.7				
4 効率的運用			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加え、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない接着剤の使用	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤としてCO2を用い、フロン類を用いない、ソフラン-R A種1	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2 71%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.8	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光外対策ガイドライン項目の過半を満たし、屋外広告は無い。	5.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		1.0	0.30	-	-	